



老 慧
長 智

李 登 輝

その1【全5回】

台湾の経済発展を指揮したアジアのリーダーは、日本の後藤新平賞を受賞した。後藤は台湾の民政長官時代に多大の業績を残したが、むしろその精神性にこそ魅力があると語る。

台湾の基礎を築いた後藤新平 独自の精神性にこそ惹かれる

今年、私は「後藤新平賞」（後藤新平の会主催）の第1回

受賞者に選ばれました。後藤はご存じのとおり、100年先を見通して

大きなスケールで政策を構想し、数々の業績を残した政治家です。台湾とも縁が深く、1898年から1906年にかけて、台湾総督府の民政長官として、未開発地域だった台湾の近代化を指導しました。悪疫の根

絶のために医療や上下水道の整備を進め、教育を普及させ、産業を振興するなど民生向上に多大の貢献をしました。

私が生まれたときには後藤はすでに台湾におらず、直接のつながりもありません。しかし、今日の台湾は後藤が築いた基礎の上にあり、この延長線上に新しい台湾政府と台湾の民主化を促進した私は、決して彼と

■ 李 登 輝

り・とうき ●1923年台湾生まれ。京大農学部を経て49年台湾大卒。米コーネル大博士。72年に政界入り。88年蔣経国・總統死去により副總統から總統に就く。96年には直接選挙制による初の總統に。2000年退任。台湾の民主化を指導した。

無縁ではありません。実は何より私は後藤との間に、強い精神的なつながりを感じているのです。

後藤はもともと医師で、自由民権運動の遊説先で板垣退助が暴漢に襲われ負傷したとき、板垣を治療しています。子どものころ、この事実を知った私は後藤を尊敬し私淑するようになりました。

台湾がまだ清朝の統治下にあった

とき、北京から派遣された劉という知事が台湾の近代化を図ろうとしましたが、ほとんど失敗に終わってしまいました。それは開発の初期条件の整備に注意を払わなかったこと、そして開発資金に無頓着だったこと、さらにこれはとても大事なことです。開発の目的を明確に持っていなかったことです。

ところが後藤はそうしたことをよく理解し台湾統治に当たりました。何より人的リーダーシップに優れていました。彼は台湾に着任すると人事の刷新と人材の登用を行いました。登用された中には、中村是公や新渡戸稲造など優秀な人物がそろっていました。

後藤は「人の世話にならぬよう。人のお世話をするよう。そして報いを求めぬよう」という「自治三訣」を提唱していますが、その人間像は他の日本の政治家には見られない独自の精神性を持っています。

これは普通の論理ではない形而上学的な信仰があるのです。後藤の信仰は私は知りませんが、言動からは強い信仰を持っていることがうかがえます。信仰のセンス（判断、感覚）は理屈ではなく情動、情緒です。私はクリスチャンです。後藤に私が強い精神的なつながりを感じるのには、そうした強い信仰を持っているからです。後藤は私にとって精神的な導きの師でもあります。